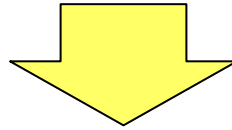
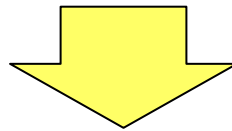


照査用下限加速度応答スペクトル

活断層等の存在が確認されていない場所でも、最低限考慮すべき地震動を設定する必要がある。



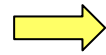
- ・M6.5直下地震による加速度応答スペクトル(平均+標準偏差)
 - ・M7.3直下地震による加速度応答スペクトル(平均)
- をダム距離減衰式を用いて求める



これを包絡するように、また、ダムの固有周期帯を考慮して
照査用下限加速度応答スペクトルを設定する。

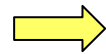
マグニチュードと地表地震断層の関係

- ・ $M \leq 6.5$ の地震は地表に活断層として痕跡を残していないものが**多い**。



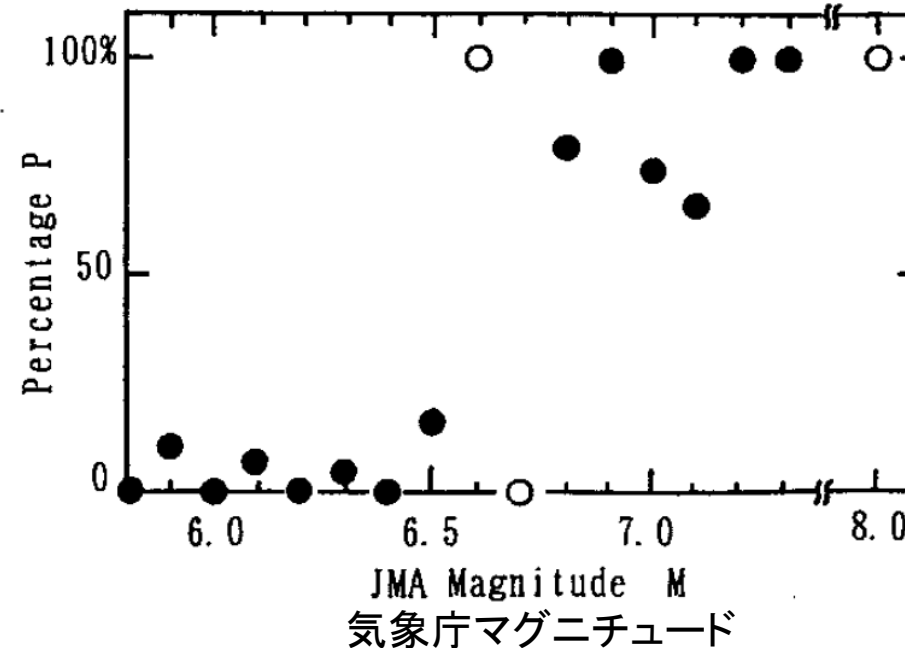
ダム距離減衰式の“平均＋標準偏差”を用いた評価

- ・ $M = 7.3$ 程度までは地表に断層が出現しない**場合もある**。鳥取県西部地震 ($M7.3$) においては地表断層が確認されなかった。



ダム距離減衰式の“平均”を用いた評価

地表断層が確認できた割合



※白丸はデータ数が1つのみのもの。

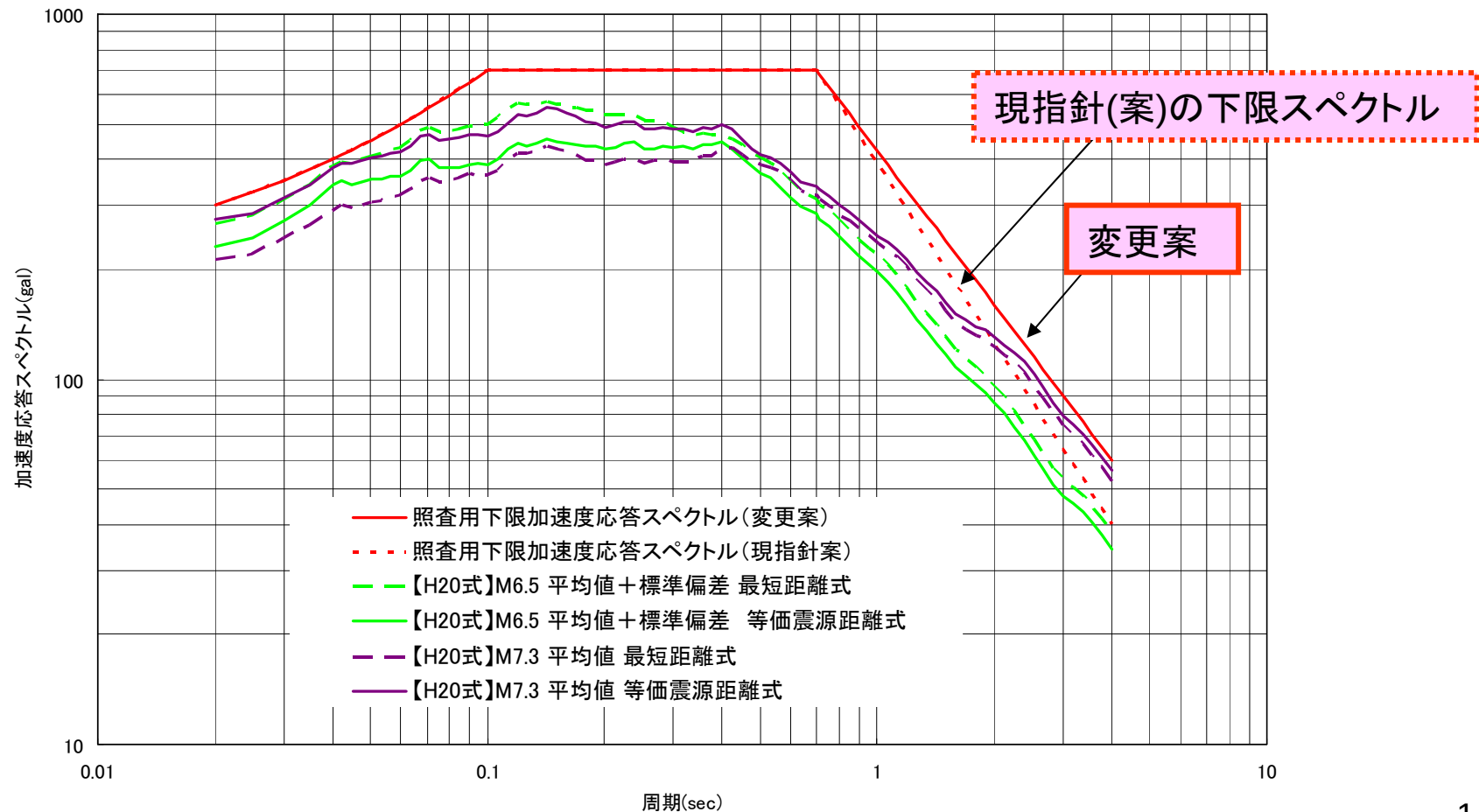
(参考文献)

武村;「日本列島における地殻内地震のスケーリング則」,
地震,51,No.2,pp211-228(1998)

照査用下限加速度応答スペクトルの再評価

水平動

距離減衰式(H20)を用いて照査用下限加速度応答スペクトルを評価したところ、現指針(案)の下限スペクトルを一部超過したため、これを包絡するような変更を行った。



照査用下限加速度応答スペクトルの再評価

鉛直動

新しく鉛直動の距離減衰式を作成したため、これを用いて鉛直動の照査用下限加速度応答スペクトルを**新たに作成した**。

